



特251. 351  
164 576

昭和八年指定富山縣地方振興指導村

振興計劃要項

富山縣東礪波郡利賀村

始

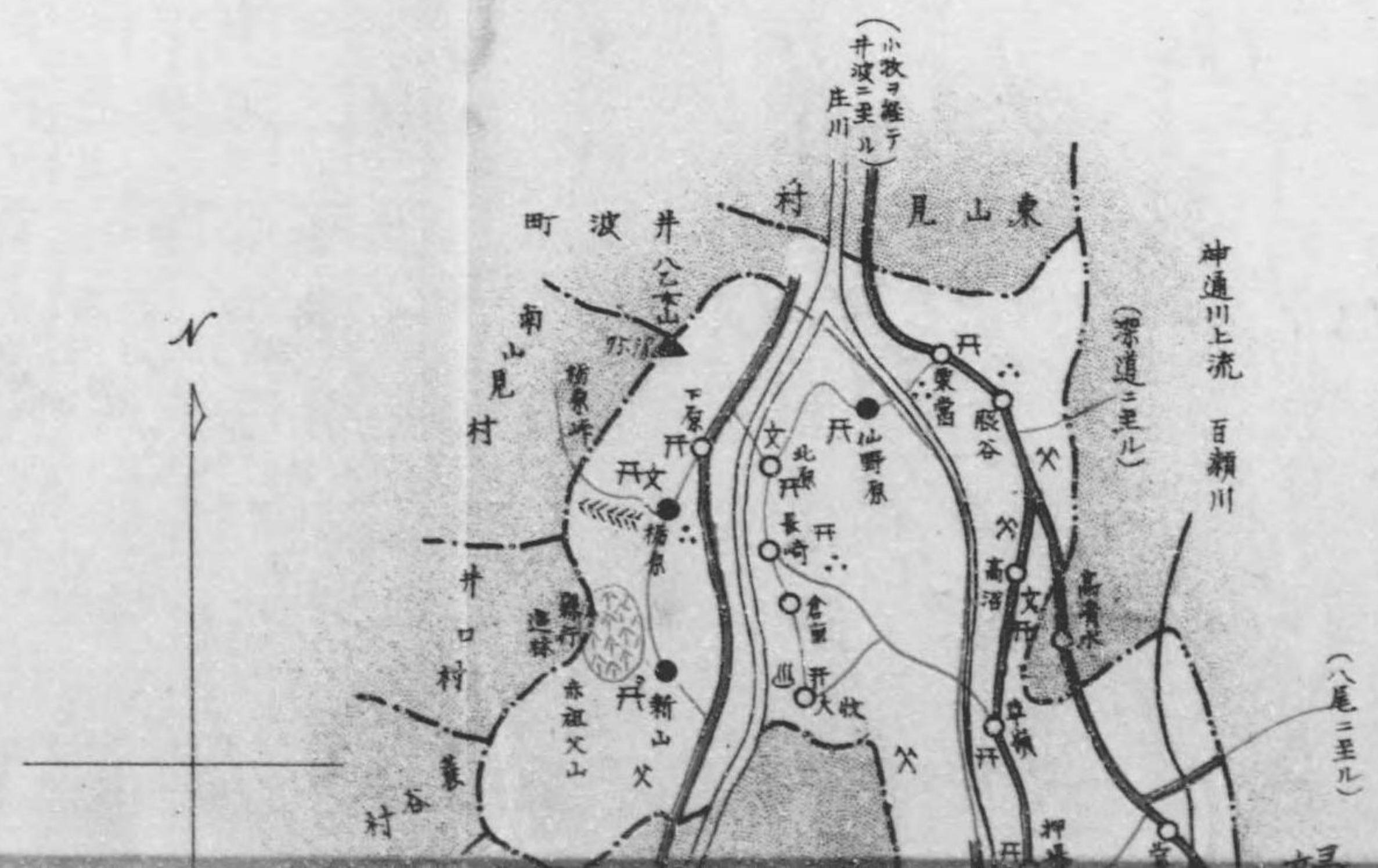


	∖	∖	∖	∖	∖	○	●	卍	卍	△	△
天	國	福	計	所	車	大	麻	寺	文	古	海
	教	泉	泉	川	館	毛	好	廟	所	館	海
	台	干	文	山	火	山	山	田			山
地	心	泉	惟	學	泉	山	山	山	山	山	山
	山	泉	泉	泉	泉	泉	泉	泉	泉	泉	泉



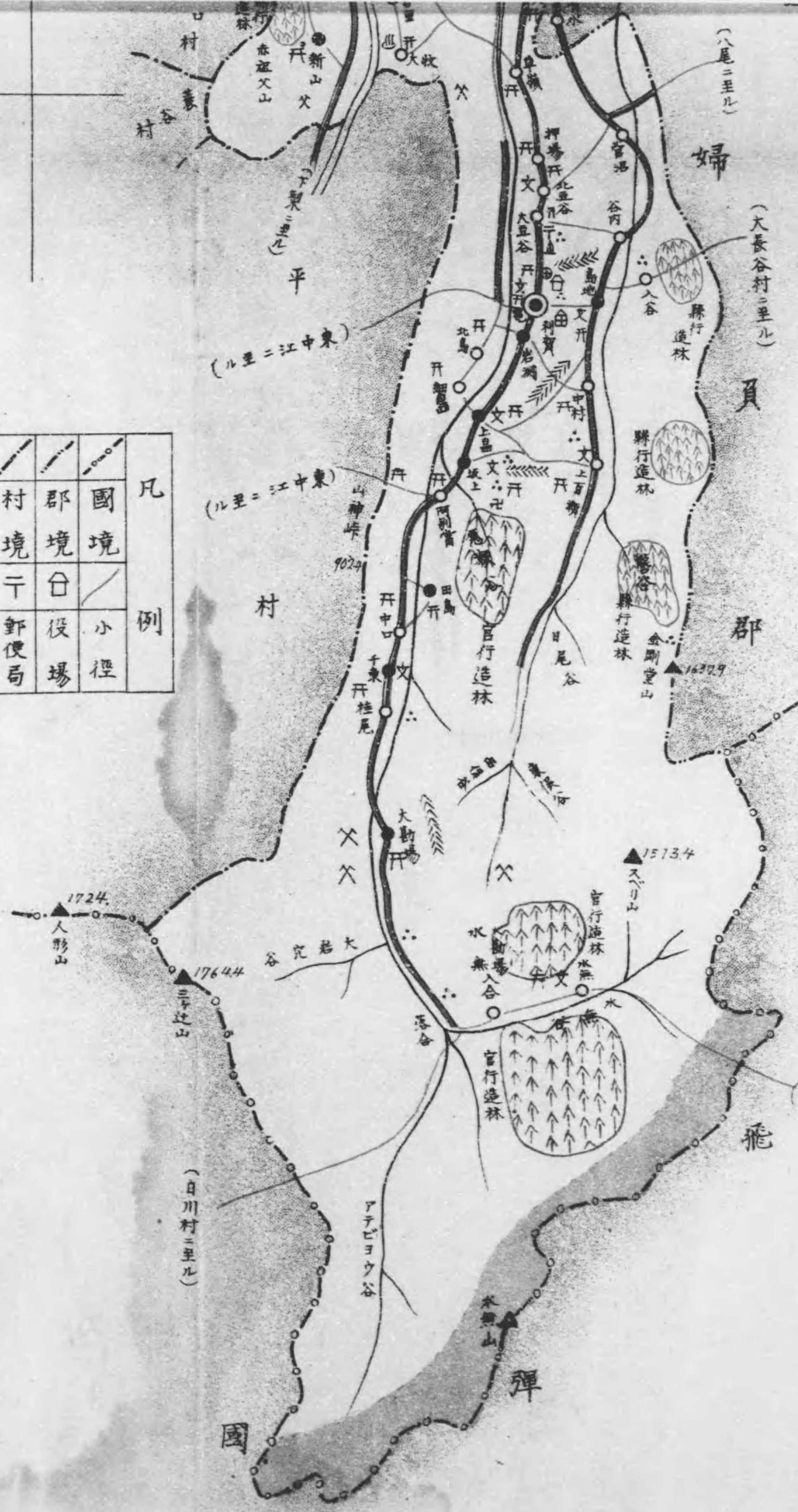
利賀村畧圖

(約十五方合)



(約十五万分、一縮圖)

廣 表 十 一 方 里  
村 有 林 面 積 六 千 六 百 町 步



血	∴	卍	卍	●	○	電	／	／	／	／	凡
古塚	旧名蹟	寺院	神社	森林總合所在地	大字	電氣所	車道	河川	村境	郡境	國境
≡≡≡	■	田	⊕	⊕	⊕	×	山	文	干	台	例
平場	國有林	病院	駐在所	造林地	官行造林地	鑛山	温泉	學校	郵便局	役場	小徑

# 利賀村振興計劃要項

## 目次

第一	利賀村振興計劃樹立方針	(一)
第二	是	(二)
第三	利賀村振興委員會分科部門	(三)
第四	自治振興計劃	(四)
第五	一般私經濟ノ更生	(五)
第六	更生上要ル助長行政施設	(五)
第七	教育振興計劃	(六)
第八	林業振興ノ大綱	(九)
第九	殖産振興計劃總覽	(一〇)
第一〇	林業擴充七ヶ年計劃	(一一)



第一一	木炭増産擴充七ヶ年計劃	(一一)
第一二	植樹造林七ヶ年計劃	(一七)
第一三	林野產物採取擴充七ヶ年計劃	(二三)
第一四	林野產物栽培擴充七ヶ年計劃	(二五)
第一五	水田開墾擴充七ヶ年計劃	(三一)
第一六	麥、粟、蕎麥栽培擴充計劃	(三六)
第一七	大、小豆並ニ蔬菜栽培擴充計劃	(三七)
第一八	養蠶擴充五ヶ年計劃	(三八)
第一九	養畜三ヶ年計劃	(四三)
第二〇	水産増殖計劃	(四七)
第二一	冬期勞力消化家内工藝増産七ヶ年計劃	(四八)
第二二	木竹工品増産擴充五ヶ年計劃	(五三)
第二三	産業組合振興擴充計劃	(五七)
第二四	全村現在五十萬圓負債整理計劃	(五九)

## 利賀村振興計劃樹立方針

本村ハ廣袤十一方里、神通、庄川、利賀川ノ三流域ニ跨リ、戸數四百六十五戸、人口三千五百、小學校ハ一本校、十分校ヲ有シ、有史以來嘗テ見ザル疲弊困憊ノ現況ニ鑑ミ經濟更生ノ實ヲ擧ゲンカ一大決心ヲ以テ精神ノ融和親善緊張ト村民一致ノ協力ヲ基礎トシ生産増加ノ合理化、消費節約、舊習離脱改善ヲ圖リ自治ノ向上、村民ノ富力ヲ増進スルヲ以テ急務トス、時偶々本年四月本縣地方振興指導村ニ指定セラレ、一層責任ノ重大サヲ感ジ茲ニ劃時代の進展ヲ期セントシ昨秋組織シタル本村振興委員會ニ更ニ委員十名ヲ追加シ現在四十名ヲ以テ構成シ、左記部門ヲ設置、銳意計劃ト其實行ニ努ムル所アリシガ、廣凡ナル地積ト二十九ヶノ部落ハ十四里ニ散在シ、地形及業態區々ニシテ調査ト實際ニ即シタル計劃ノ案出極メテ至難ニシテ今本計劃ヲ樹立シタリト雖モ之ヲ以テ全村ノ理想的開發ヲ期シ難ク更ニ第二期以後ノ計劃ニ依リ之ヲ充足スルノ要アリ、到底單純ナル普通農村ト異リ交通機關ノ不備ニシテ、地理的境遇ヨリ頗ル難事ナリトスルモ亦無限ニ開拓進展極メテ多クノ餘地ノ存ズル点ニ於テ更生ノ確實性ト將來ノ發達トヲ容易ニ期待スルヲ得ベシ。

本計劃ハ大体七ヶ年ヲ以テ完成ヲ目論見タルモノニシテ唯負債整理ノミ現在ノ五十萬圓ノ巨額ヲ以テ本計劃期間ノ積極的投資ト併行シ完債ハ望ミ難ク特ニ十ヶ年ト定メタルモノナリ。依テ茲ニ、食糧ノ自給自足ヲ目スル開田事業ト、未ダ運輸交通ニ惠マレズシテ徒ラニ死藏サレタル縣下有數ヲ以テ聞ユル奥地大森林ノ合理的利用開發ト。今一ツ舊幕時代ヨリ慣習的ニ行ハル、物々交換の物貨取引ノ弊ヲ改メ經濟ノ一大改革ノ。三者ニ重点ヲ置キ之ニ主力ヲ注グト共ニ他面副業ノ新興ト改善增收ヲ圖リ一村一家主義標榜ノ下ニ之ガ實行ヲ求メ勤儉力行ニ依リ得タル金額ヲ以テ年次舊債償還、土地買戻シノ資ニ充テシメ以テ村民生活ノ基礎ヲ確立セシメントス。

# 村 是

- 一、勅語、詔書ノ御趣旨ヲ體得シ國民精神ヲ作興スベシ。
- 二、村民ハ融和親善和衷協調各々村是ヲ遵守スベシ。
- 三、各種産業經營ヲ合理化シ立体的ニ、多角經營ヲ爲シ生産ノ増殖ヲ圖リ自給自足ヲ期シ以テ富力増進ノ根元ヲ培フコト。
- 四、生産販賣ノ擴充、共同購入ノ統制ヲ圖リ自力更生ヲ期ス。
- 五、民力ヲ涵養シ生活ノ分度ヲ節シ十年以内ニ必ズ負債償却ヲ期ス。
- 六、報徳仕法ノ趣旨ニ基キ生活改善ヲ日々向上ニ努ムベシ。
- 七、教育ノ向上充實振興ヲ期ス。
- 八、主要縣村道ノ改善ト林道網ノ促進完成ヲ期ス。
- 九、電話及電燈ノ充實ヲ期ス。
- 一〇、村有林造林造成ノ速進ヲ圖リ基本財産利子ニ依リ三十年後ノ無稅村實現ヲ期ス。

## 利賀村振興委員會分科部門

部 名	處 務
總 務 部	總務、庶務、調查、統計、連絡、監察、
教 務 部	社寺、學務、社會教育、教化、軍事、
產 業 部	產政、農産、林業、養蠶、水産、商工、副業、出荷、規格統一、
土 木 部	建設、管理、災害防止、電氣、水利、建築、道路、橋梁、林道、
經 濟 部	共益利用、修理、電話、
外 交 部	産業組合、金融、預金、負債整理、販賣、購買、利用、組合、
自 治 部	生活指導、統制、
社 會 部	紹介、情報、連絡、調査、交渉、
	租稅、基本財産、財政、報道、周知、村勢、豫算、政務、自治、風儀、
	家政相談、人事相談、案内、衛生、救助、消費節約、生活改善、
	勞力調節、勞力配給、警備、

## 自治振興計劃

### 一、行政機關

村長以下全吏員及村會議員ハ非常時局ノ重大責任ヲ重ンジ戰場ニ臨ミタル忠勇義烈ナル我軍隊ノ如キ意氣ト熱誠ヲ以テ献身努力ヲ拂ヒ以テ本更生計劃ノ大事業達成ヲ期スルモノナリ。

### 二、實狀周知ト政令ノ徹底

(一) 過去及現在ノ村勢並ニ之ニ基キ計劃シタル振興ノ將來ニ對スル方針ヲ周知セシムル爲メ各校下又ハ部落毎ニ村長、吏員、學校職員、村會議員、振興委員等完全ナル徹底ヲ見ルマデ勞ヲ厭ハズ巡回出席シ講演會、座談會、懇談會ヲ開催シ尙近ク本村勢展覽會ヲ開催シ普ク知ラシムルモノトス。

(二) 時々文書、印刷物ヲ發行各戸ニ配付シ村ノ實狀及振興計劃ノ實行模様並ニ政令各般ノ周知徹底ヲ期ス。

### 三、村財政ノ確立

(一) 村ノ施設經營ノ擴大強化ヲ圖リ財政ノ確立ヲ期シ以テ堅實ナル團體ヲ組成シ自治ノ本義ヲ運行スルノ基礎ヲ培フモノトス。

(二) 村費ハ努メテ負擔ノ輕減ヲ圖ルト共ニ課稅ノ公平ヲ期ス。

(三) 村財政ヲ強固ナラシムル爲メ基本財産造成ヲ速進方法トシテ萬難ヲ斥ケ官行造林、縣行造林ヲ合セ目下實施中ノモノヲ含ミ今度十五ヶ年ニ亘リ町歩ヲ目指シ造林ノ植栽ヲ完了スルモノトス。  
既ニ植栽シタルモノニシテ二十年以上ヲ經過シタルモノ其後繼續實施ヲ爲セルモノ等利用ノ時期十年後ニ到ラバ愈々開始スルヲ得ベク今後三十年ヲ俟タズ公課ノ全部ヲ其利子ニ依リ支辨スルコト確實ナリ。

## 一般私經濟ノ更生

天然雜木ノ更新施業ヲ爲ス村有林數千町歩ヲ有スレバ局部有林野統一ノ條件タル一回限り輪伐樹木ノ部落民讓與處分ノ完了既ニ部分的ニ進行シ村ノ施業ニ移リタルモノ及近キ將來ニ移ラントスルモノ極メテ多ク近ク之ガ利用開始ニ依ル收入亦巨額ニ達スベシ依テ村財政ノ將來愈々強固ナラントス。

村是ノ綱領ニ依リ夫々計劃ヲ樹立シタルコト下記ニ詳記ス。

## 更生ニ要スル助長行政施設

專ラ自力更生ニ依ルト雖モ現在ノ如キ縣、村道ノ狀態ヲ以テ到底運輸ノ圓滑ト低廉ヲ望ミ難ク急速ナル一大改善ヲ急務トス、亦奥地大森林ノ開發ニ必然的ニ必要トスル林道開鑿ハ幹支線ヲ通ジ二十三路線延長十萬五千メートル工費六十萬圓ヲ要シ今後國縣ノ繼續的急速度ノ開鑿施設ニ俟タザレバ期シテ之ヲ望ムベクモアラズ之等各種ノ道路ノ完備ト開鑿助成金ノ交付ト低利資金供給ノ程度トハ本村更生ノ能否ヲ左右スル重大ナル結果ヲ齎スモノト謂ハザルベカラズ國縣ノ特政ヲ仰グヤ愈々切ナリ尙之ニ依リ概ネ奥地ニ無限ニ死藏スル銅、亞鉛、黑鉛、石灰其他ノ礦物ヲ搬出スルヲ得バ道路ノ効果ヲ絶大ニ發揮シ獨リ本村ノ福祉ヲ進ムルノミニ止マラス本縣勢ノ進展ニ寄與スル所蓋シ甚大ナリトス。



# 教育新興計劃

精神教育/徹底	公民教育	新興計畫施設	一般社會教化	經濟生活指導	其ノ他
一、勅語詔書ノ聖旨奉 體。 (イ)國體觀念ノ明徴 祝日、大祭日ニハ 國旗掲揚各戸勅語 奉讀若シクハ遠拜。 (ロ)努メテ最寄官公 學校へ参列スル。 (ハ)御下賜日ニハ必 ズ奉讀。 (ニ)新聞、雜誌等一 切ノ御影ヲ鄭重ニ スル。 二、敬神崇祖ノ思想涵 養。 (イ)朝ニ禮拜夕ニ感 謝。 (ロ)祭祖ヲ鄭重ニス ル。	一、憲法ノ精神ヲ涵養 スル。 二、共存共榮ノ美風ヲ 剛致、奉仕ノ精神ヲ 養フ。 三、社會連帶ノ觀念養 成。 四、家庭ノ團樂。 五、選舉ノ重要性徹底。 六、公私混淆ヲ嚴ニ誠 ム。 七、「吾等ノ郷土ハ吾 等ヲ起テ」ヲ標語ト スル。 八、生産知識ノ普及一 産業組合ノ趣旨徹底。 九、經濟觀念養成。 一〇、週間物價周知(日	一、各種教化團體總動 員ニテ自力更生ノ徹 底ヲハカル。 二、地方産業、自治、 財政、經濟、交通、 運輸、兵社寺、沿革、 地誌ヲ調査研究シテ 是レヲ郷土化ス。 三、夏季休業ヲ冬季ニ 繰越シ通學ヲ便ニシ 生業ノ助ケヲナサシ ム。 四、補習學校ニ於テ生 産ニ即シテ教育ヲ施 ス。 五、小學校ニ於テ學校 園ヲ經營、勞作教育 ヲ振起シ勤勞愛好ノ	一、建國祭ヲ嚴修祭禮 ナ鄭重ニシ時宜ニヨ リ敬神崇祖ノ講演ヲ スル。 二、集會佛事ノ集合ヲ 利用シ支障ナキ限リ 時宜ニヨリ講演座談 ナスル。 三、隣保相憐相互扶助 五惠奉仕ノ美風ヲ涵 養スル。 四、冠婚葬祭ハ精神ヲ 第一トシ肅清質素ヲ 旨トスル。 五、ラヂオ体操ヲ普及 獎勵。 六、時間尊重、禮節ヲ 重シシ日常生活ヲ革	一、家計簿記入、豫算 生活分度確立獎勵。 二、漬物、味噌、自家 醬油ノ改良。 三、地方産物ノ調理法 研究。 四、産業組合ノ利用普 及。 五、榮養ヲ改善、保健 衛生思想普及。 六、簡易理髮所設置、 巡回當番風呂獎勵。 七、非常時義務貯金勵 行。 八、共同購入共同販賣 ノ獎勵。 九、混食飯ノ獎勵並ニ 馬鈴薯飯、其他代用	一、出征 者保護 二、戰死 者遺家 族及現 役軍人 慰籍。

(ハ)神社及墓所ヲ清 肅ニシ行事ヲ嚴カ ニスル。 (ニ)神佛鎮座ノ場所 ハ必ズ心拜スル。 (ホ)各戸神棚御厨子 ハ清肅ニシ汚穢セ ザルコト、 三、郷土ノ由來ヲ明ラ カニシ愛村心ヲ養ヒ 良序淳風ヲ育クム。 (イ)天然記念物ノ保 護。 (ロ)遺跡、遺物ノ保 存。 (ハ)風儀整容ヲ慎ム。 (ニ)郷土ノ實際ヲ周 知。 (ホ)部落融和。 (ヘ)相互、謙讓。 (ト)相互提撕。 (チ)名勝風致ノ保存。	(用品)。 一一、權利義務ノ觀念 ナ正確徹底。 一二、公共團體ノ趣旨 普及。	念慮ヲ高調スル。 六、巡回講座、部落懇 談會、通俗講演會、 報德其他各種ノ講習 會ヲ開催シ成人教育 ノ徹底ヲ期ス。 七、農繁期ニ公共建造 物ニ託兒所設置。 八、生産品評會、手藝 品、農閑工藝品展覽 會、家政展覽會ヲ開 催、品質品位ノ向上 ヲ企ル。 九、趣味ノ涵養、情操 教育ニ留意スル。 一〇、學校ト各種團體 ハ相互連絡ヲハカリ 相提携スル。 一一、昭和九年ニ高等 小學校ヲ設置シ漸次 各校舍ノ増築、並ニ 交通機關ノ整備ニ伴 ヒ近キ將來ニ學校ノ	新スル。 七、名勝地ノ紹介、史 蹟天然記念物ヲ保護 宣揚スル。 八、自治、産業、教育、 社會事業、兵事、土 木、金融、各種團體 ノ功勞者並ニ孝子節 婦ノ表彰。 九、愛郷心ノ宣揚。 一〇、善良ナル娛樂ノ 指導。 一一、民衆文藝ノ精撰。 一二、禮讓ヲ重シズル 美風ヲ馴致スル。 一三、公私ヲ論ゼズ責 任ヲ完フシ社會協調 ノ精神ヲ涵養シ公正、 正確敏捷ヲ專一ニス ル。 一四、尊徳先生ノ報徳 教養ヲ教化ノ基調ト シ毎月二十三日先生	食ノ獎勵。 一〇、禁欲デーノ獎勵。 一一、廢物利用、家内 工藝、副業獎勵、産 業ノ合理化指導。 一二、家庭菓子製造ノ 獎勵。 一三、兒童ニ改良服裝 勵、二重生活打破。 一四、因襲ヲ改メ、虛 禮廢止、冗費節約。 一五、週間物價ヲ周知 セシメ買物指導。 一六、竈ノ改良(粉炭 鋸屑使用)獎勵。 一七、粉炭、メドン製 造、家庭燃料費ノ節 減。
--	--	--	--	---

- 四、公共營造物ノ取扱ヲ慎重ニスル。
- 五、碩學、學識、德行ノ勳功アル名士ノ啓咳ニ接スルコト。
- 六、長上ヲ敬スルコト。
- 七、保存スベキ慣例、風習ノ調査。

- 廢合ヲ行ヒ内容ヲ充實擴張シ教育能率ノ増進ヲ効シ廢校舍ハ公會館ニ充用ス。
- 一二、冬季通學遠隔地ハ寮舍制ヲ實施、夏季ハトラクタ 通學ヲ併用。
- 一三、生産教育ヲ振興スル。
- 一四、上級學校入學志望者後援共濟制ノ實行。
- 一五、教育第一ヲ標語トスル。
- 一六、補習學校研究科(青訓)ノ絕對出席獎勵。
- 一七、自發的ニ報徳社ノ結社ヲ爲ス報徳精神ノ養成ニ努ムルコト。

ノ誕生日ニ於テ適當ナル方法ニヨリ訓話スル。

## 林業振興ノ大綱

疲憊窮乏其極ニ達シタル本村更生ノ方途ハ農耕ノ業亦欠クベカラズト雖モ一ツニ懸リテ縣下ニ冠絶シタル大森林國有林三千町歩、村有林六千六百町歩、私有林七千餘町歩ハ將ニ無限ノ寶庫トモ云フベク資源ノ豊富ナルコト他ニ其比頗ル稀ナリ、將來之ガ劃時代的利用開發ニ依リ村民生活安定ノ基礎ヲ確立スルニアリ之ガ開發ハ物資運搬ノ利便ヲ講ズルヲ第一ノ急務トス昭和七年ヨリ縣營林道ノ開發僅カニ其緒ニツキタリト雖モ現時ノ如キ小施設ヲ以テ到底數十年ヲ以テスルモ尙及バザルノ慨アリ、今後國縣ノ開發施設ト地元森林業者ノ林道開發ニヨリ急速ニ幹支線林道網ノ完成ヲ期セザルベカラズ一面新業ノ合理的經營ニ各般ノ意ヲ用ヒザルベカラズ之ガ指導機關トシテ本年々俸一千二百圓ノ豫算議決ヲ爲シ本村林業技術員ノ設置ヲ計劃シタルモ其後國縣ノ助長行政施設トシテ本縣林業技手ノ駐在計劃アルヤ本村ニ駐在專任ヲ條件トシ村技術員設置ヲ廢シ縣費ノ方ヘ金六百圓ノ寄付ヲ爲シ近ク其派遣駐在ヲ得ルニ到レリ、更ニ經營上ノ一大改善ノ要急ナルモノアリ、今般全村十二ヶノ森林組合ヲ打ツテ一丸トシタル本村森林組合聯合會ヲ組織シ以テ其統制上遺憾ナキヲ期シ適當ナル指導助長ノ方策ヲ執リ公有林施業經營ト相並ビ全村的林業ノ開發ヲ策セントス。

他面本村信用組合ヲシテ本年井波町ニ第二事務所ヲ新設シ倉庫ヲ設ケ全村木炭其他林產物ヲ一手ニ引受生産品ノ販賣ト製品ノ監査統一ニ任ジ以テ金融ノ圓滑ヲ期シ物々交換ノ弊ヲ完全ニ打破シ村民ノ利潤増加ニ努メ茲ニ全面的本村更生ノ實ヲ舉ゲントス。

### 殖産振興計劃總覽

種別	計畵區分	現	在	三ヶ年計畵	七年後ノ目標
林業	林業擴充計劃		九、五〇〇圓	一六、三〇〇圓	二九、五〇〇圓
	木炭増産擴充計劃		三〇〇、〇〇〇貫	六〇五、〇〇〇貫	一〇〇〇、〇〇〇貫
	植樹造林計劃		四四三三反一〇三歩 一一四六五〇〇本	八六五六反一〇三歩 一九九二、〇〇〇圓	二、一四〇八反一〇三歩 四八七五、〇〇〇本
	林野産物栽培擴充計劃		二、三四五圓	一四、二〇五圓	三九、〇七五圓
	林野産物採取擴充計劃		二、六〇〇圓	一九、五〇〇圓	四一、〇〇〇圓
	水田開墾擴充計劃		一一七三反〇二〇歩	一五三二反〇〇〇歩	二三八一反〇二〇歩
	養蠶増收擴充計劃		九、二二五貫	一二、八九五貫	一七、一〇五貫
	養畜計劃	牛 七頭 馬 四頭 鶏 五頭 兔 八頭 猪 二頭		四六五頭 四六五頭 二、二二五羽	
	水産増殖擴充計劃				一〇、〇〇〇圓
	冬期勞力消化家内工藝増産計劃		二一、六六一圓	四四、六二〇圓	八六、二二〇圓
	木竹工品増産擴充計劃		二、一五〇圓	三二、九〇〇圓	六六、〇〇〇圓

備考

- 一、本總覽中養蠶及木、竹、工品、水産増殖擴充計劃ハ五ヶ年トス。
- 二、雜穀栽培擴充計劃、蔬菜栽培擴充計劃ハ人口増加ヲ目スル本村將來ノ自給自足ヲ目標トス。

### 林業擴充七ヶ年計劃

(別表添付)

現	況	更生振興ノ目標	實行方法
本村用材ノ搬出ハ交通不備ノ爲メ利賀川ヲ利用スル流材作業ニ依リ僅カニ二年産四、五萬石ニ過ギ、薪材ハ現在村内ノ需用ヲ充スニ止マレリ。	一、道路ノ改良完備ト相俟ツテ過剩勞力ノ消化政策トシ山林ノ天然更新、植樹造林ノ間伐等ニ依ル用材薪材等ノ擴充ヲ計リ別表計畵ノ目的達成ヲ期セントス。	一、從來ノ慣行ニ依ル流材作業ノ合理的經營ト事業家ノ誘致ニ努ム。 二、薪材、東木等ノ伐出ヲ獎勵シトラツク運輸ノ利便ヲ圖リ共同販賣等ニ依リ大都市工場地帯等ノ豫約販賣ヲナサムトス。	

### 林業擴充七ヶ年計劃

	現	在	三年目伐出計劃	七年後ノ目標
用材		五〇〇、〇〇〇石 九、五〇〇圓	七〇〇、〇〇〇石 一三、三〇〇圓	一〇〇〇、〇〇〇石 一九、〇〇〇圓
薪材			二、五〇〇圓 三、〇〇〇圓	七、〇〇〇圓 一〇、五〇〇圓
計		九、五〇〇圓	一六、三〇〇圓	二九、五〇〇圓

木炭増産擴充七ヶ年計劃

(別表添付)

現 況	更 生 振 興 ノ 目 標	實 行 方 法
<p>本村ハ公私有林ヲ合セ約一萬六千町歩ノ山林ヲ有シ然モ千古斧鉞ヲ入レザル處女林ガ其ノ大部分ヲ占メ木炭材ハ殆ド無盡蔵ト謂フベク、剩餘勞力亦年々數百人ノ村外出稼ヲ爲スノ現狀ナルモ市街地ヲ距ツルコト十數里ニ及ビ交通運輸機關ノ甚ダシク不備ニ依ル運搬費ノ高率ト購販賣機關ノ不統制ニ依ル仲間商人ノ純利壟斷ニ依リ發展ヲ阻害サレ不振ノ狀態ニシテ僅カニ村内ノ比較的市街地ヘ近接シタル部落ニ於テノミ利用シ製炭事業ニ從事シツ、アル現狀ナリ。</p>	<p>一、森林組合ノ利用活動。                      イ、林間開墾。                      ロ、木炭倉庫ノ建設。                      ハ、木炭ノ保護改良。                      ニ、橋、樑等ノ天然更新及人工造林。                      二、村營木炭製造。                      イ、幹線林道ノ開通ト相俟ツテ水無官造林地帯ニ村直營又ハ産業組合利用部ニテ製炭經營。                      ロ、運搬能率ノ増進。                      1、道路ノ改良。                      2、トラツク運輸。                      ハ、俵繩ノ自給自足。                      1、家庭製紙家以外ノ毎戸冬期副業トシテ村内需要以上ノ生産ヲ期ス。                      ニ、繩俵ハ産業組合ニテ村内需用ノ</p>	<p>一、剩餘勞力ノ利用。                      イ、從來岐阜縣、長野縣方面ヘ炭燒トシテ出稼者ノ大部分ヲ村内製炭事業ニ從事セシメ之等ヲ主トシテ水無、坂上等ノ官行造林地帯及上百瀬、栃原、上畠其ノ他ノ縣行造林地帯ニ從事セシメ農閑期ヲ利用スル炭燒夫ヲ其他公私有林ニ從事セシム。                      ロ、俵裝及運搬。                      現在各種救濟土木事業ニ從事中ノ勞働者、婦女子等ヲ山出シ運搬並ニ俵裝ニ從事セシメ且ツ出荷組合ヲ組織シテ、トラツクニ依ル大量運搬ノ計劃ヲ樹テ分業的ニ能率増進ヲ計ルモノトス。                      二、事業資金ノ圓滑化。</p>

<p>調査ヲナシ之ヲ配給シ各製炭者ノ圓滑ヲ計ル。</p> <p>三、購販賣。                      イ、生産資金ノ融通、購買品ノ供給等ハ産業組合ニテ之ヲ爲ス。                      ロ、販賣。                      産業組合ニ於テ委託又ハ買取ノ方法ニヨリ、生産者ノ利便ヲハカリ、縣内外ノ産業組合並ニ大都市ニ向ツテ大量販賣ノ計劃ヲ實行シ別表百萬貫生産計劃ノ達成ヲ期セントス。</p>	<p>一、原料林買入代金、其他事業資金ハ製炭品ニ依リ精算スルヲ條件トシテ信用組合ヨリ低利ニ之ヲ融通ナサシム。                      三、品質ノ改良販賣方法ノ改善。                      イ、從來個人商人ト物々交換的取引ヲナシ或ハ之等ニ委託販賣ニ依リ品質ノ良否ヲ論セズ中間者ノ搾取的販賣方法行ハレタルニヨリ本村木炭ノ聲價漸次失墜ノ弊アリ、斷然此ノ弊習ヲ改善シ産業組合ニ統一販賣ヲナシ、大都市進出ニ努力シ大量取引ヲ行ハントス。</p>
--	---

木炭増産擴充七ヶ年計劃

大字名	戸數	現		昭和八年		昭和九年		昭和十年		七年後ノ目標		摘要
		實數	價額	實數	價額	實數	價額	實數	價額	實數	價額	
水無	七					10,000	1,000	10,000	1,000	100,000	10,000	
奥大勘場	一五	二,000	100	五,000	500	10,000	1,000	15,000	1,500	100,000	10,000	
桂尾	五	1,000	100	五,000	500	五,000	500	五,000	500	10,000	1,000	
千束	九	二,000	100	七,000	700	10,000	1,000	10,000	1,000	15,000	1,500	
田ノ島	一五	二,000	100	二,五〇〇	250	五,000	500	10,000	1,000	10,000	1,000	
阿別當	二六	二,000	100			二,000	200	六,000	600	五,000	500	
坂上	三三	五,000	500	12,000	1,200	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	
上島	三八	1,000	100	1,000	100	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	
細島	八	1,000	100			五,000	500	10,000	1,000	15,000	1,500	

北島	四	1,000	100	1,500	150	二,000	200	二,000	200	二,000	200	
岩淵	一七	五,000	500	五,000	500	五,000	500	10,000	1,000	10,000	1,000	
利賀	一五	三,000	300	二,000	200	二,000	200	10,000	1,000	10,000	1,000	
大豆谷	一九	1,000	100	1,000	100	二,000	200	三,000	300	三,000	300	
北豆谷	二〇	1,000	100	1,000	100	二,000	200	二,000	200	二,000	200	
押場	八	二,000	200	七,五〇〇	750	八,000	800	八,五〇〇	850	八,五〇〇	850	
上百瀬	三	110,000	11,000	110,000	11,000	110,000	11,000	110,000	11,000	110,000	11,000	
中村	一五	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	
百瀬川	七	五,000	500	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	
草嶺	一一	三,000	300	三,000	300	三,000	300	三,000	300	三,000	300	
高沼	二	1,000	100	1,000	100	1,000	100	1,000	100	1,000	100	
栗當	七	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	10,000	1,000	

合 計	阿別當入合坂上	百瀬川入合	大勘場無入合	新 山	栃 原	下 原	大 牧	長 崎	北 原	仙野原
四六				四	二〇	一一	一	七	四	七
三〇〇,〇〇〇				一,〇〇〇	五,〇〇〇	二,〇〇〇		二,〇〇〇	一,〇〇〇	五,〇〇〇
二〇,〇〇〇				一〇〇	二〇〇	二〇〇		二〇〇	一〇〇	三〇〇
三六,〇〇〇				五,〇〇〇	一五,〇〇〇	二二,〇〇〇		一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
三六,〇〇〇				五〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇		一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇
四七,〇〇〇				一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇		一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一五,〇〇〇
一〇〇,〇〇〇				一,〇〇〇	二,〇〇〇	三〇〇		一,〇〇〇	一,〇〇〇	二,〇〇〇
六〇五,〇〇〇				一五,〇〇〇	二〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇		一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	二〇,〇〇〇
六〇,〇〇〇				一,〇〇〇	二,〇〇〇	三〇〇		一,〇〇〇	一,〇〇〇	二,〇〇〇
一,〇〇〇,〇〇〇				一五,〇〇〇	二〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇		一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	二〇,〇〇〇
一〇〇,〇〇〇				一,〇〇〇	二,〇〇〇	三〇〇		一,〇〇〇	一,〇〇〇	二,〇〇〇

### 植樹造林七ヶ年計劃 (別表添付)

現 況	更生 振興ノ目的	實 行 方 法
<p>本村永遠ノ大計ヲ確立スルノ方途ハ他ナシ、植樹造林ノ積極的經營實施ニアリ、此處ニ於テ村ハ大正十五年部落有林野ノ一大統一整理斷行ト共ニ一躍驟下ニ冠絶セル村有林面積六千六百町歩ニ及ビ之ガ利用ト村有財産ノ造成並ニ村民ニ就勞ノ機會ヲ與ヘンガタメ、昭和三年始メテ坂上、阿別當入合地内ニ二百三十六町歩ノ契約ヲ締結シ官行造林ノ實施計劃ヲ樹テ現在八十餘町歩ノ植栽ヲ終リ引續キ實施中ニアリ、今年亦大勘場水無入合地ニ於テ四百九町歩ノ契約ヲ締結シ十ヶ年計劃ニヨリ本年ヨリ植栽ニ着手セントス、又百瀬川筋</p>	<p>總面積一萬八千町歩内耕地ハ僅々一割ニ過ギザル本村將來ノ福利ヲ増進シ村民永住ノ樂土タラシメンコトヲ冀圖センニハ交通機關ノ完備ト相マツテ林業ノ合理的經營ト經濟機構ノ根本的確立ヲ期セザルベカラス本村如何ニ天與ノ資源ト廣大ナル地積ヲ有スト雖モ人和ラズ協同一致ノ精神ニ缺ケ有機的活動ヲ爲スニアラズンバ木魚ノ類ヲ洩レズ百年河清ヲ待ツニ等シカルベシ、宜シク村民自覺發奮ヲ喚起シ愛郷心ノ發露ヨリナル協同團結ヲ基礎トシ國縣ノ助長行政ノ下ニ別表ノ如ク第一期植樹造林七ヶ年計劃ヲ樹テ官行造林及縣行</p>	<p>一、官縣行造林豫定地ノ植栽實施速進及擴張。            二、森林組合ノ統制的活動ヲ促シ國縣ノ助長政策ト相呼應シ地區内造林ノ達成。            三、毎戸平均毎年最少限度百本ヲ下ラサル個人造林ノ確實勵行。            四、苗木ノ自給自足ヲ目シ森林組合、村農會ニ於テ苗圃ノ設置。            五、造林、手入、枝打、間伐方法ノ改善勵行。</p>

及栃原地方ニ於テ公私有林二百町歩ノ  
 縣行造林地貸借契約ヲ締結シ既ニ九十  
 余町歩ノ植栽完了シ引續キ實施中ニア  
 リ村有造林面積ハ現在五十町歩ニ達シ  
 個人造林又近時村民ノ自覺ニ依リ急激  
 ナル増加ヲ示シ現在二百二十五町歩ニ  
 達シタリト雖モ到ル處造林地ナラザル  
 ハナキ本村ノ廣漠タル地積ニ比シ甚ダ  
 微々タルノ憾ミヲ有シ將ニ九牛ノ一毛  
 タルノ概アリ。

造林ノ實施ト相俟ツテ私有造林新植栽  
 面積五百二十町歩ノ増加ヲ期ス。

植樹造林七ヶ年計劃

大字名	戸數	現在			七年後ノ目標			本年中實施	
		官林	民林	有林	官林	民林	有林	官林	民林
水無	七	本步	本步	本步	本步	本步	本步	本步	本步
奥大勘場	一五			10,000			10,000		10,000
桂尾	五			10,000			10,000		10,000
千束	九			10,000			10,000		10,000
田ノ島	一五			10,000			10,000		10,000
阿別當	二六			10,000			10,000		10,000
坂上	三九			10,000			10,000		10,000
上島	三八			10,000			10,000		10,000
細島	八			10,000			10,000		10,000





林野産物採取擴充七ヶ年計劃

(別表添付)

現 況	更 生 振 興 ノ 目 標	實 行 方 法
<p>本村ハ天賦ノ林野産物ヲ無限ニ有スト雖モ交通運輸ノ關係ト之ガ採取、加工、利用ノ合理的指導斡旋機關ノ無カリシ爲僅ニ百瀬川ニ於ケル筍ノ採取加工(罐詰)ト大勘場、水無等ニ於ケルぜんまい、ぜくらげ、樽茸等ノ採取ト蓬ヲ原料トスルもぐさノ製造ヲ最モ原始的ニ行ハレツ、アル状態ニシテ其他ハ僅カニ村民ノ必要ヲ充ス程度ニシテ徒ニ死藏スルノ状態ナリ。</p>	<p>一、ぜんまい、山うぎ、蕨、蕨、筍等ノ採取加工ニ積極的縣ノ助成指導ヲ仰ギ本村駐在林業技術員ノ指導ノ下ニ採取期ニハ各部落ノ繁閑ヲ考慮シ總動員的之ニ従事セシメ一面之等ノ保護栽培ヲ計リ永久的增收ヲ圖ラントス。</p> <p>二、山葡萄、栗、くるみ、榧ノ實、山椒、其他藥草ノ栽培、採取ヲ他ノ産業トノ努力ノ繁閑ヲ考察シテ積極的增收ヲ企圖シ就中山葡萄ハ液トシテ村内消費ノ習慣ヲ養ヒ現在年額三百數十石消費ノ和洋酒ヲ積極的節減セントス。</p>	<p>一、ぜんまい、山うぎ、蕨、筍等ノ採取加工。</p> <p>イ、講習會開催。</p> <p>ロ、講師ノ招聘。</p> <p>ハ、勞力分布ノ狀況ニ依リ奥地ニ於テ天幕又ハ小屋掛等ヲ爲シテ採取ス。</p> <p>ニ、販路ノ擴張及共同販賣(大都市進出)</p> <p>二、山葡萄。</p> <p>イ、葡萄酒ノ製造。</p> <p>ロ、保管方法ノ研究。</p> <p>ハ、村内消費ノ獎勵。</p> <p>ニ、販賣ノ擴張。</p>

<p>三、菌茸、禽獸ノ採取、狩獵ヲ獎勵シ植樹林野ノ保護ヲ爲スト共ニ村民收入ノ増大ヲ圖ラムトス。</p>	<p>ホ、共同販賣。</p> <p>三、栗、くるみ、榧ノ實、山椒。</p> <p>イ、山栗ノ採取加工並ニ接木ニ依ル品種改良。</p> <p>ロ、くるみノ採取加工(食用、採油)</p> <p>ハ、榧ノ實ノ採取加工。</p> <p>ニ、山椒ノ栽培、採取(藥用嗜好食用)</p> <p>四、禽獸。</p> <p>イ、熊、猿、狸、狐、貂、いたち、山兎等ノ捕獲ヲナシ之等ノ肉食獎勵毛皮共同販賣ヲ關係團體ト連絡統制ヲ執リ之ヲ行フ。</p> <p>ロ、きじ、山鳥等ノ肉用鳥類ノ捕獲ヲナスト共ニ一面之等鳥類ノ保護ヲ圖リ害鳥獸ノ驅除驅逐ノ徹底ヲ期ス。</p>
---	--

### 林野産物採取擴充七ヶ年計劃

	現在	三ヶ年計劃	七年後ノ目標	重ナル産地
ぜんまいい	二〇〇円	三、〇〇〇円	五、〇〇〇円	水無、大勘場
山 草(蓬、山ウジ、 蕨、露等)	一、〇〇〇	三、〇〇〇	五、〇〇〇	全村
山 草	五〇〇	一、五〇〇	二、五〇〇	百瀬川筋
山 草	五〇	一、五〇〇	三、五〇〇	水無、大勘場、上百瀬奥山
山 草(栽培ヲ含マス)	一〇〇	二、五〇〇	五、〇〇〇	全村
山 草	五〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇	全村
栗	一五〇	一、五〇〇	三、五〇〇	全村
く	一〇〇	一、五〇〇	三、五〇〇	全村
樺	一五〇	二、〇〇〇	五、〇〇〇	全村
菌	三〇〇	二、〇〇〇	五、〇〇〇	全村
計	二、六〇〇	一九、五〇〇	四一、〇〇〇	

備考  
一、山葡萄ハ液トシ販賣スルモノニシテ村外移出ヲ從トシ主トシテ村内消費ノ慣習ヲ養ヒ節酒ノ經濟ヲ圖ルモノトス。

### 林野産物栽培擴充七ヶ年計劃

(別紙添付)

現況	更生振興ノ目標	實行方法
<p>山葵栽培ニ最モ好適スル奥地ノ廣漠タル地積ト而モ冷下セル水質ノ多量ニ存スル本村ハ數年前村内ノ熱心家ヲ督勵助長シ屢々全國産地ノ本場及市場ヲ視察セシメ以テ水無ニ栽培シタルニ其ノ成績豫期ニ反セズ品質優秀ナルコト全國稀ニ見ル所ニシテ爾來銳意増産ニ努メツ、アリ、今ヤ本縣ノ特産品トシテ縣内外ノ注文殺倒シ需用日ニ熾ナラントスルノ盛況ニアリ。</p>	<p>1、山 葵 水無大勘場一帯ノ適地ニ積極的栽培ノ擴充ヲ期シ、其ノ他百瀬川上流及岩淵、栗當、仙野原、栃原、新山ノ適地ヲ新ニ指定シ本年村内斯道ノ經驗者ヲ派遣シ栽培田ノ開墾、植付方法ノ實地指導ヲナシ、三ヶ年一千二百六十貫、七ヶ年二千七百貫ヲ目標トスルモ村民ノ自覺ト努力トニ俟タバ敢テ難事タラズ、將來本村ノ特有物産トシテ收入ノ増加ヲ圖ルモノナリ。</p>	<p>一、村有地貸付栽培田擴張。 二、講師派遣實地指導。 三、生産品ノ販路擴張斡旋。 四、苗山葵ノ移出。 五、出荷組合。 六、除虫手入ノ勵行。</p>
<p>櫛木ニ適當セル櫛等ノ原木無限ニ存シ風土亦適當ニシテ野生ノモノ相當多シト雖モ需用日ニ熾ナルノ秋進ンデ栽培セントスル者ナキ憾ヲ有ス。</p>	<p>2、椎 茸 本年講師ヲ招聘講習會ヲ開催シ三年後各戸平均一貫目ノ生産ヲ計劃シ七年後平均五貫目ヲ目標トスルモ櫛木豐富ニシテ村民ノ自覺發奮ニ俟タバ豫期以上ノ成果ヲ擧グルハ難事タラズ。</p>	<p>一、講師招聘講習會ノ開催。 二、全村普遍的栽培。 三、共同乾燥。 四、共同出荷。</p>
<p>3、藥 草</p>		

一步戶外ニ出ヅレバ無限ニ繁茂セル貴重藥品トシテ効能卓越セル草木夥シキモ採集利用ノ知識ト其ノ觀念ニ乏シク悉ク放棄サル、ノ現狀ニアリ、近時僅カニ、ゲンノシヤウコ類ノ小部分採集ヲ一部ニ行フニ過ギズ。

山地ニ繁茂セル藥草ノ採取及廣汎ナル空地ヲ利用シ之ガ栽培ヲナシ、共同出荷ヲナシ三年後一戸平均五圓、七年後平均十圓ノ收益ヲ擧グ。

左ノ藥草採集栽培。  
 (イ)三七(血止) (ロ)やせびしやく(惡阻)  
 (ハ)つるな(胃痛) (ニ)いたざり(淋疾、月經) (ホ)くさぎ(脚氣、淋疾) (ヘ)つゆくさ(心臟、利尿) (ト)せんだん(驅虫)  
 (チ)きんみづひき(吐瀉) (リ)するかつら(利尿) (ヌ)さるこりばゑ(梅毒) (ル)のこぎりさつ(健胃、痔疾) (オ)かんこりさう(小兒の疳) (ワ)ゆきのした(鎮痛、火傷) (カ)ごくだみ(吸出、おでき) (ヨ)はこべ(骨折、打撲) (タ)おほばこ(利尿、消臭) (レ)わらび(下熱劑) (ツ)わうれん(健胃、下り止め) (ッ)せんぶり(胃痛) (ネ)ふうろうそう(下痢) (ナ)みうろうばな(にきび) (ラ)べんけいさう(腫の膿を吸出す) (ム)せんきら(頭痛) (ウ)すみれ(下し、毒を吐かす) (キ)ひるがほ(筋骨

全村ヲ通ジ栽培果樹總ジテ僅々壹千餘本、自然生ノ栗、胡桃、榧ノ木等相等ニアリト雖モ採取ヲ等閉ニ付セラレ村內ノ需用量ニ比シ遠ク及バズ年々二千圓以上ノ移入ヲ見ツ、アリ。

農山村ノ振興ハ多角形農業ノ經營ニアリ、果樹ヨリノ收入皆無ニシテ年々多額ノ移入ヲ見ツ、アル本村ハ畢竟村民ノ果樹栽培ニ對スル認識不足ニ基因スルヲ以テ村民ノ自覺ニマテ毎戸宅地ノ一隅及附近ノ廣汎ナル空地ヲ利用シ本村ノ氣候風土ニ適シタル果實ヲ栽培セシメ村内ノ需用ヲ充足シ進ンデ移出販賣ヲ爲スモノトス。

4、果 實

を合す) (ノ)ヂキタリス(心臟病) (オ)しやくやく(腹痛、下痢止) (ク)ゆきのした(みみだれ、小兒咳) (ヤ)サフラン(血液循環) (マ)あをき(傷、火傷) (ケ)あけびのつる(頭痛) (フ)あかざ(虫歯、虫傷、癩風) (コ)けいみう(痔疾) (ヘ)なづな(のみこり) (テ)たんぼ(健胃) (ア)たがら(おこりかぜ、リウマチス) (サ)にはみこ(ふるに入れて血の道をよくす) (キ)にんにく(強精劑) (ユ)七度煎(風藥)

一、宅地及空地ヲ利用シタル、林檎、柿、梨、桃、無花果、梅、櫻桃、銀杏、栗、胡桃樹ノ栽培經營。  
 二、樹苗ノ共同購入。  
 三、接木ノ實行。  
 四、栽培法ノ指導。  
 五、共同出荷。  
 六、販路斡旋。

林野産物栽培擴充七ヶ年計劃

大字名	戸數	現在			三ヶ年計劃			七年後ノ目標			
		山葵	椎茸	藥草	山葵	椎茸	藥草	山葵	椎茸	藥草	
水無	七	11,000圓			4,000圓	7,000圓	3,500圓	1,500圓	3,500圓	700圓	700圓
奧大勘場	一五	2,250圓			2,500圓	1,050圓	750圓	500圓	500圓	1,500圓	1,500圓
桂尾	五					1,050圓	250圓	1,000圓	1,750圓	500圓	500圓
千束	九	100圓			2,500圓	630圓	450圓	500圓	3,450圓	900圓	900圓
田ノ島	一五					1,050圓	750圓		5,150圓	1,500圓	1,500圓
阿別當	二八					1,960圓	1,400圓	1,400圓	9,800圓	2,800圓	2,800圓
坂上	三九					2,730圓	1,950圓	1,950圓	1,365圓	3,900圓	3,900圓
上島	三八					2,660圓	1,900圓	1,900圓	1,330圓	3,800圓	3,800圓
細島	八					560圓	400圓	400圓	2,800圓	800圓	800圓

北島	四					284圓	20圓	20圓	100圓	40圓	40圓
岩淵	一七					2,170圓	850圓	2,500圓	585圓	1,700圓	1,700圓
利賀	四五					3,450圓	2,350圓	2,350圓	1,375圓	4,000圓	4,000圓
大豆谷	一九					1,310圓	950圓	950圓	695圓	1,900圓	1,900圓
北豆谷	二〇					1,100圓	100圓	100圓	700圓	100圓	100圓
押場	八					560圓	400圓	400圓	200圓	80圓	80圓
上百瀨	三三					2,330圓	1,600圓	1,600圓	1,110圓	3,100圓	3,100圓
中村	一五			10		1,050圓	750圓	750圓	575圓	1,500圓	1,500圓
百瀨川	五七			30		3,990圓	2,850圓	2,850圓	1,995圓	5,700圓	5,700圓
草嶺	二二					770圓	550圓	550圓	385圓	1,100圓	1,100圓
高沼	三					820圓	600圓	600圓	410圓	1,100圓	1,100圓
栗當	七					490圓	350圓	350圓	245圓	700圓	700圓

合 計	坂阿別當入合	百瀬川入合	大勘場入合	新 山	枋 原	下 原	大 牧	長 崎	北 原	仙 野 原
四六五				四	二〇	二	一	七	四	七
二二二										
四四五										
六〇										
六〇										
一、三三〇		一、〇〇〇		一〇〇	二五〇					一〇〇
三、二五五				二六	一〇〇	七	七一	四九七	二八四	四九七
二、三二五				一〇	一〇〇	五五	五	三五	一〇	三五
二、三二五				一〇	一〇〇	五五	五	三五	一〇	三五
二、七〇〇		二、〇〇〇		一〇	一〇〇	五五	五	三五	一〇	三五
三、五〇〇				二五〇	一〇〇	五五	五	三五	一〇	三五
一、六二五				一〇	一〇〇	五五	五	三五	一〇	三五
四、三〇〇				五〇	一〇〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
四、六五〇				五〇	一〇〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇

### 水田開墾擴充七ヶ年計劃

(別表添付)

現 況	更 生 振 興 ノ 目 標	實 行 方 法
<p>一、本村ノ水田現在面積ハ百十七町三反ナルモ栽培方法ノ研究猶足ラザル結果年産額二千石ニ過ギズ本村一ヶ年ノ自給米約四千石ヲ要スルニ依リ猶二千石ノ不足ニシテ之等ノ供給ハ主トシテ井波町、八尾町方面ヨリ購入シツ、アルモ難路十數里ノ運賃ハ平均一石貳圓六拾錢ヲ要シ此數實ニ五千圓以上ヲ算シ購入元金ヲ合算スレバ五萬圓以上支出ノ餘儀ナキモノナリ。</p> <p>今ニ於テ自給自足ヲ目標トシ耕地擴張計劃ヲ樹立シ之ガ目的達成ニ學村一大決心ヲ以テ全力ヲ傾注セザレバ本村ノ更生望ミ難キモノトス。</p>	<p>一、開墾豫定地及水利狀況調、耕地整理組合ノ組織等ヲ爲シ開墾助成法、時局匡救、二年量開墾、小開墾ニ極力之ヲ需メ之等ニ達セサル小耕地ニ對シテハ別表ニ定ムル豫定面積ヲ其ノ資力、勞力等ニ應ジ各戸毎年割當面積ノ開田ヲ實行スルト共ニ品種ノ改良栽培方法ノ改善等ニ依リ反當リ增收ノ計劃ヲ樹テ之ヲ實行スルニ於テハ裕ニ全村ヲ通ジ自給自足ニ到達セシムルコト確實ナリトス。</p> <p>猶自給肥料ノ増産ニ努メ金肥ノ全廢ヲ目標ニ村民收入ノ増加ヲ計ラントス。</p>	<p>一、土地ノ調査。 イ、開墾豫定地ノ調査。 ロ、土壤ノ調査。 ハ、水利調査。 ニ、換地交換。 ホ、地類、地目ノ變換。 二、開墾助成法ノ適用。 イ、百瀬川、中村、上百瀬、利賀、水無。 三、小開墾及二年量開墾。 昭和七年度ヨリ着工中ノ田ノ島、上畠、百瀬川ノ小開墾ノ完成ヲ促進シ更ニ八年度ノ百瀬川字谷内耕地整理組合ノ二年量開墾並ニ粟當小開墾ヲ何レモ年度内竣成ヲ期スルト共ニ全</p>

村ノ適地ニ努メテ之ヲ需メ更ニ奥大  
 勘場、千束、中口、阿別當、坂上、  
 上島、細島、岩淵、上百瀬、百瀬川、  
 兩豆谷、押場、草嶺、高沼、仙野原、  
 北原、長崎、枋原、下原ノ各部落ニ  
 九年度以降ノ事業トシテ小開墾ヲ實  
 施ス。

四、其他ノ開墾。

イ、助成ヲ受ケ得ザル五反歩未満ノ  
 開墾地ニ對シ可成的便宜ヲ與ヘ必  
 要ニ應ジ産業組合ヲシテ長期低利  
 資金融通等ノ途ニ依ル。

水田開墾擴充七ヶ年計劃

大字名	戸數	現		昭和八年		昭和九年		昭和十年		八年ヨリ七年後ノ目標		七年後ノ開田 増加反別
		反別	在	反別	在	反別	在	反別	在	反別	在	
水無	七	三,000	四八	六,000	四八	三,000	四八	三,000	四八	一,000	二二	一,000
奥大勘場	一五	三,五〇〇	二,一〇	三,七,五〇〇	四,一〇	四,〇〇〇	四,一,五〇〇	四,〇〇〇	四,一,五〇〇	三,〇〇〇	五,〇〇〇	一,五〇〇
桂尾	五	一〇,〇〇〇	二,〇〇〇	一三,〇〇〇	一,〇〇〇	一四,〇〇〇	一,〇〇〇	一五,〇〇〇	一,〇〇〇	二,〇〇〇	五,〇〇〇	一,五〇〇
千束	九	一三,〇〇〇	一,三〇	一四,〇〇〇	一,〇〇〇	一五,〇〇〇	一,〇〇〇	一六,〇〇〇	一,〇〇〇	三,〇〇〇	三,八〇	二,三〇〇
田ノ島	一五	二二,〇〇〇	一,〇〇〇	二七,〇〇〇	三,〇〇〇	三〇,〇〇〇	四,〇〇〇	三〇,〇〇〇	四,〇〇〇	四,〇〇〇	四,〇〇〇	三,〇〇〇
阿別當	二八	九〇,〇〇〇	三,〇〇〇	九三,〇〇〇	九,〇〇〇	九六,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一三〇,〇〇〇	五,〇〇〇	三〇,〇〇〇
坂上	三六	一六二,〇〇〇	四,〇〇〇	一七〇,〇〇〇	一六,〇〇〇	一七八,〇〇〇	一八,〇〇〇	一八六,〇〇〇	一八,〇〇〇	二三三,〇〇〇	五,〇〇〇	六〇,〇〇〇
上島	三六	八五,〇〇〇	二,二二	九五,〇〇〇	九,〇〇〇	一〇六,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇八,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一三三,〇〇〇	三,〇〇〇	五〇,〇〇〇
細島	八	四一,五〇〇	五,三六	四二,〇〇〇	四,〇〇〇	四三,〇〇〇	四,〇〇〇	四四,〇〇〇	四,〇〇〇	四九,〇〇〇	二,二二	五〇,〇〇〇

栗常	高沼	草嶺	百瀬川	中村	上百瀬	押場	北豆谷	大豆谷	利賀	岩淵	北島
七	二	二	七	一	三	八	二	一	四	一	四
一六、六三三	一、一〇一		一四〇、〇〇〇	九、六三四	四九、二三四	一〇、〇〇〇	五、〇〇〇	四、〇〇〇	五、〇〇〇	八、三〇〇	二〇、七〇五
二、三四五	七		二、六〇二	六	一、五一一	一、二二三	二、五二五	二、三〇四	一、一〇三	四、八二四	五、一三三
二、六二一	二、〇〇〇		二、〇〇〇	一〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	八、五〇〇	二二、〇〇〇
二、三〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、五〇〇	一一、〇〇〇	五三、〇〇〇	一一、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	七、〇〇〇	八、七〇〇	二二、〇〇〇
二、〇〇〇	二、〇〇〇	六、〇〇〇	二、五〇〇	一四、〇〇〇	六〇、〇〇〇	一四、〇〇〇	五、〇〇〇	四、〇〇〇	一〇、一〇〇	九、〇〇〇	二二、〇〇〇
二、六三三	一〇、一〇一	一〇、〇〇〇	二、五〇〇	一〇、六三四	一四九、二三四	二〇、〇〇〇	七、〇〇〇	五、〇〇〇	二、六三〇	九、八〇〇	二二、七〇五
三、〇三三	二、二六二	一、〇三三	二、二二二	七、〇〇〇	七、七六六	五、七五五	三、三二二	二、二八二	二、六三〇	五、七二〇	六、四〇九
一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇

仙野原	北原	長崎	大牧	下原	栃原	新山	大勘場入合	水無入合	上百瀬川入合	阿別常入合	合計
七	四	七	一	二	二〇	四					四六五
七〇〇	一八、五二五	一六、一〇九		六四、二二九	二五、六三三						二七三、〇一〇
一〇〇	四、六四四	二、四〇一		五、八二一	六、二二五						二、五〇七
一、〇〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇		六、四、五〇〇	一、六、〇〇〇						一、二八、六三三
一、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一七、五〇〇		六、五、〇〇〇	二、八、〇〇〇						一、四〇、一〇〇
二、〇〇〇	二二、〇〇〇	一八、〇〇〇		六、五、〇〇〇	一、四〇、〇〇〇						一、五二、一〇〇
二〇、七〇〇	二八、五三四	二二、一〇九		六、九、二二九	一、五、五、六三三						一、三六、一〇一〇
二、七二七	七、七二九	三、〇〇〇		六、三、二七	七、七、七二七						五、一〇六
一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇		五、〇〇〇	一〇、〇〇〇						一、九五、〇〇〇

麥、粟、蕎麥栽培擴充計劃

現況	<p>降雪多量ノ關係上本村ノ麥ハ二毛作ニ適セザルモ地味肥沃ニシテ栽培ニ適シ且ツ蕎麥、粟等ハ植樹造林地拵地ヲ燒拂ヒ此地ヲ利用シテ栽培スルニ於テハ施肥ノ必要ナク最モ經濟的ニ栽培セラ、現狀ニアルモ近時栽培面積ハ次第ニ縮少ノ狀態ニアリ自給米ノ不足約二千石ニ及ブ本村ノ混食獎勵ノ立場ヨリ誠ニ遺憾ノ極メトセザルベカラズ。</p>
更生振興ノ目標	<p>一、麥ノ栽培ハ各戸自家混食ノ必要以上ノ栽培ヲ期シ粟、蕎麥等ハ植林計劃地利用等ノ方法其他ニ依リ少クモ各戸不足米ノ大半ヲ補フベキ栽培ヲ實行シ混食ノ習慣ヲ養ハントス。</p>
實行方法	<p>一、品種ノ改良。 イ、農會等ノ斡旋ニ依リ優良品種ノ共同購入。 ロ、栽培指導、村駐在本縣技術員其他篤農栽培熱心家ノ指導ニ需ム。 ハ、肥培管理。 堆肥ノ増産ヲ計リ金肥ナシ、栽培ヲ目標トスル、病蟲害ノ驅除ヲ行ヒ混食上必要ナル加工、保管等ヲ爲ス。 二、蕎麥、粟。 イ、蕎麥ヲ毎戸植林計劃ト相俟ツテ實行ナサシム（初年蕎麥、二年粟、三年小豆、大豆等栽培） ロ、肥培管理並ニ加工。 堆肥並ニ草刈入法ニ依ル施肥及混食上理想的加工ノ實施。</p>

大、小豆並ニ蔬菜栽培擴充計劃

現況	<p>水田面積ノ狭少ナルニ比例シテ傾斜地ナルモ畑地ハ相當面積ヲ有スルモ大、小豆並ニ蔬菜ノ栽培ハ甚ダ幼稚ニシテ蔬菜、小豆等ハ辛ジテ自給自足ヲ成シ得ルモ大豆ハ全村ヲ通ジ不足ノ狀態ニシテ自家用、味噌、醬油ノ製造並ニ馬糞等ニ要スル大豆ハ年々多量ノ移入ノ餘儀ナキ現狀ニアリ。</p>
更生振興ノ目的	<p>一、麥ノ裏作、桑園ノ間作等ノ方法ニ依リ大小豆ノ擴充ヲ計リ自家用ノ味噌醬油ノ製造等ヲ人口増加ノ村將來ヲ目シ其自給自足ヲ劃シ適當ナル栽培方法ノ研究改良ヲ加ヘ其ノ増殖ヲ計ラントス。 二、蔬菜。 地理的關係ヨリ魚類ノ需給至難ナル本村民ノ副食物トシテ蔬菜ノ栽培ハ重要ナルモノニシテ林産工業ノ擴充發展ト共ニ愈々其ノ需用増大スルニ至ルベク之ガ自給自足ハ本村更生振興ノ上ニ重大ナル影響ヲ齎スモノナルニ依リ空地ノ利用、間作、裏作等ノ方法ニ依リ之ガ増産ヲ期セントス。</p>
實行方法	<p>一、品種ノ改良。 イ、農會等ノ斡旋ニヨリ優良品種ヲ共同購入。 ロ、採種圃ノ設置。 二、肥料ノ自給自足。 三、加工。 イ、自家用醬油、味噌等ノ製造指導。 ロ、漬物製造講習。 ハ、貯藏方法ノ指導講習。</p>



### 養蠶擴充五ヶ年計劃

現況	更生振興ノ目標	實行方法
<p>一、本村ハ地積頗ル廣汎ナリト雖モ大部分ガ山林又ハ傾斜地ニシテ水田耕地ニ適セザルニ依リ古來養蠶ヲ以テ殆ンド主業トシ風土ノ關係上最モ養蠶ニ適スルモノアリ、然ルニ桑園ハ拾町步餘ニ達スルモ往時ノマ、品種劣等ナル荒廢桑園多ク飼育方法亦改良ノ餘地多量ニ存シ、蠶種ノ購入等モ個々ニ行ハレ品種ノ精撰等甚ダ杜撰ナルモノニシテ主トシテ春蠶飼育ニ偏シ養蠶戸數ノ多キト桑園面積比較的廣汎ナルニ比シ僅カニ養蠶戸數一戸當リ平均二十貫、總産額八千貫ノ状態ニアリ。</p> <p>繭ノ販賣ニ至ツテハ地理的關係ノ存スルモ理想的乾繭場ナキ爲村内ニケ</p>	<p>一、養蠶實行組合ノ統制的活動ヲ促シ桑園ノ整理改植ヲ行ヒ桑ノ品種改良ヲ爲シ各部落毎ノ桑葉供給状態ヲ調査シ一反歩一千貫收穫目標ノ實地指導桑園並ニ試作桑園ヲ設置シ稚蠶共同飼育場、共同乾繭場ノ建設等内部の充實ヲ圖リ蠶種ノ精撰共同購入、共同保管等ヲ爲シ技術員ヲ設置シ稚蠶共同飼育、上簇改良、生糸共同繰返シ生繭、生糸等ノ共同販賣等合理的經營方法ヲ考究實施シ耕地擴張其他ノ産業ト併立ヲ目的トスル夏秋蠶ノ増殖計劃ヲ樹テ五ヶ年後ニハ一戸當リ平均五十貫年産額二十五萬貫ヲ生産セントス。</p>	<p>一、桑園ノ改良。</p> <p>イ、現在ノ桑園面積百十町步ヲ改良存置ノ見込ナキモノ三十町步ヲ整理シ改良ヲ要スルモノ又ハ優良ナルモノ八十町トスルコト。</p> <p>ロ、品種ノ改良。</p> <p>1、春蠶用。</p> <p>十島、水澤、飛驒桑在來種、山桑ノ改良栽培。</p> <p>2、夏秋蠶用。</p> <p>魯桑實生ノ改良栽培。</p> <p>ハ、肥培管理。</p> <p>1、自給肥料ノ増産。</p> <p>2、青刈大豆ノ栽培。</p> <p>3、風雪害ノ豫防、除蟲消毒ノ徹底。</p>

ノ製絲家ニ僅カニ一部分ヲ販賣スルノ外各家庭ニ於テ座繰製絲ヲ爲スノ舊態ヲ改メズ隨テ製品不統一ニ流レ自然規格低下シ愈々收入ノ減殺ヲ招キツ、アリ。

生糸ノ販賣ハ特定ノ個人商人ニ小口賣買ヲスルノ外隣接市街地商人ニ委託或ハ物々交換的取引ニシテ養蠶家ノ利潤極メテ僅少ナル状態ニアリ。

- ニ、蠶種ノ選擇並ニ共同購入。
- 1、専門技術者ニ選擇依頼。
  - 2、養蠶組合ニテ共同購入。
  - 3、蠶種ノ共同保管。
- ホ、飼育方法並收購。
- 1、稚蠶共同飼育。
  - 2、寒暖計、乾濕計ノ統一使用。
  - 3、上簇器並ニ其他ノ蠶具共同購入。
  - 4、上簇改良。
  - 5、共同乾繭場設置。
  - 6、共同販賣。
  - 7、製糸組合ノ設立。
  - 8、生糸検査ノ實施。

養蠶增收擴充七ヶ年計劃

現在見積單價五圓〇〇錢  
 三年後見積單價五圓〇〇錢  
 五年後見積單價六圓〇〇錢

大字名	戸數	現在年産額			三年後年産額			五年後年産額				
		春蠶	夏蠶	秋蠶	計	春蠶	夏蠶	秋蠶	計	春蠶	夏蠶	秋蠶
水無	七	100	100	100	300	100	100	300	100	100	100	300
奧大勘場	一五	100	100	100	300	100	100	300	100	100	100	300
桂尾	五	100	100	100	300	100	100	300	100	100	100	300
千束	九	100	100	100	300	100	100	300	100	100	100	300
田ノ島	一五	100	100	100	300	100	100	300	100	100	100	300
阿別當	二八	100	100	100	300	100	100	300	100	100	100	300
坂上	三九	100	100	100	300	100	100	300	100	100	100	300
上島	三八	100	100	100	300	100	100	300	100	100	100	300
細島	八	100	100	100	300	100	100	300	100	100	100	300

北島	四	100	100	100	300	100	100	300	100	100	100	300
岩淵	一七	100	100	100	300	100	100	300	100	100	100	300
利賀	四	100	100	100	300	100	100	300	100	100	100	300
大豆谷	一九	100	100	100	300	100	100	300	100	100	100	300
北豆谷	二〇	100	100	100	300	100	100	300	100	100	100	300
押場	八	100	100	100	300	100	100	300	100	100	100	300
上百瀬	三	100	100	100	300	100	100	300	100	100	100	300
中村	一五	100	100	100	300	100	100	300	100	100	100	300
百瀬川	五七	100	100	100	300	100	100	300	100	100	100	300
草嶺	二	100	100	100	300	100	100	300	100	100	100	300
高沼	三	100	100	100	300	100	100	300	100	100	100	300
栗當	七	100	100	100	300	100	100	300	100	100	100	300

合 計	阿 別 當 入 合 坂 上	百 瀨 川 入 合	大 勘 場 無 入 合	新 山	栃 原	下 原	大 牧	長 崎	北 原	仙 野 原
四六五				四	二〇	二	一	七	四	七
三、七、七〇〇				100	200	110	35	175	110	110
六、二、五〇〇				30	100	55	10	35	10	70
一、二、三、五				10	15	10		10	10	30
四、六、二、五				100	110	110	35	110	110	110
四、九、二、三				110	200	115	50	115	110	110
一、七、九、〇				30	110	110	15	70	80	150
三、七、六、七				110	110	110	5	80	110	60
七、〇、九、二				1,000	3,000	2,110	300	1,900	1,100	2,400
六、一、六、二〇				150	200	115	80	115	180	115
二、八、四、四〇				80	200	110	15	105	80	150
二、二、〇、〇〇				80	100	60	10	70	80	100
一、〇、一、〇、〇〇				1,500	4,000	2,640	390	2,510	1,180	2,970

### 養 畜 三 ヶ 年 計 劃

(別表添付)

現 況	更 生 振 興 ノ 目 標	實 行 方 法
<p>飼糧豊富ニシテ余力アリ、然モ兎毛皮、食肉、鶏卵ノ需用激増シ移入多額ニ上リ、加フルニ肥料ノ自給自足ニ到ラザル本村ノ實狀ニ徴シ養畜觀念ノ最モ乏シキ憾ミヲ有ス、之レ實ニ村民僅カノ手數ヲ省キテ有形、無形ノ莫大ナル損失ヲ不知不識ニ招來スルヲ氣付カザルニ基因スルモノニシテ現在牛馬ノ飼育ヲ爲ス者僅カニ七一頭、養兎五五羽、養鶏八九羽ノ慘メナル狀態ニアリ。</p>	<p>余剩勞力消化並ニ食肉鶏卵ノ自家用、肥料造成、牛馬飼育料收得、兎毛皮ノ移出、販賣ヲ目的トシテ農家經濟化ヲ圖ルベク、三年後、毎戸平均牛馬一頭、養兎十羽、養鶏五羽ヲ飼育セシメ旁々適當ナル副業ノ乏シキ冬期過剩勞力ノ緩和消化ヲ目的トシ斷然之ヲ實行ス。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>一、畜産組合及農事試驗場ノ轉旋ニ依リ種畜ノ共同購入。</li> <li>二、余剩勞力ヲ有利ニ利用シ飼料ノ蒐集ニ努ム。</li> <li>三、毎戸平均三ヶ年後牛馬一頭、養兎十羽、養鶏五羽ヲ目標トスル。</li> <li>四、鶏舍飼ノ實行。</li> <li>五、肥料ノ利用。</li> <li>六、共同販賣。</li> <li>七、品評會ノ開催。</li> <li>八、飼育方法ノ研究座談會。</li> </ol>

養畜三ヶ年計劃

大字名	戸數	現			昭和八年			昭和九年			昭和十年		
		牛	馬	養兔	牛	馬	養兔	牛	馬	養兔	牛	馬	養兔
水無	七				一	一	一	四	四	三	一	七	七
奥大勘場	一五			二	五	二〇	一〇	九	九	五	五	一五	一五〇
桂尾	五				一	一〇	五	三	三	一	五	五〇	二
千東	九				二	一八	五	五	五	二〇	九	九〇	四
田ノ島	一五				五	二〇	一〇	一〇	九	二〇	一五	一五〇	七
阿別當	二六				九	五五	二〇	一五	二六	八〇	二六	二六〇	一五〇
坂上	三九				一三	七六	二五	二五	三三	一〇〇	三九	三九〇	一九五
上島	三八			一〇	一三	七六	二五	二二	三三	一〇〇	三八	三九〇	一九〇
細島	八			五	一	一六	五	五	四	一五	八	八〇	四〇

北島	四				一	八	二	二	二	一〇	四	四〇	二〇
岩瀬	一七		一〇		六	三三	一三	一三	一〇	一〇	一七	一七〇	八五
利賀	四五		一三	一〇	一五	九〇	三〇	三〇	二〇	一四〇	四四	四四〇	二二〇
大豆谷	一九		四		六	三八	一三	一四	一四	五五	一九	一九〇	九
北豆谷	二〇		二	一〇	七	四〇	一五	一五	二〇	三〇	二〇	二〇〇	一〇〇
押場	八				二	一六	五	五	四	二五	八	八〇	四〇
上百瀬	三		一		一〇	六四	一五	二〇	一三	一〇〇	三	三〇	一〇
中村	一五				五	二〇	一〇	一〇	九	五〇	一五	一五〇	七五
百瀬川	五七		七	一五	一〇	一四	二〇	三三	三三	一七〇	五七	五七〇	二八五
草嶺	二		二		四	三三	八	七	六	一四〇	二	二〇	五
高沼	二		一	三	五	二二	八	八	二	三〇	二	二〇	一〇
栗當	七		一		三	一四	一〇	五	三	五五	七	七〇	三〇

合 計	阿別當入合坂上	百瀬川入合	大勘場入合水無	新 山	栃 原	下 原	大 牧	長 崎	北 原	仙 野 原
四六五				四	二〇	二	一	七	四	七
七二					五					
五五										
八九				一〇	一〇	一〇		五	五	
一五二					七	四		三	二	二
九六〇				八	五〇	三三	二	一五	八	一四
三三二				四	一〇	一〇	五	五	五	五
一〇一				三	一五	八	一	五	四	四
一一九〇				二四	一一〇	六六	六	四一	二五	四一
一、一〇				一五	二〇	三三	五	一五	一五	二五
五、六、七				四	一〇	一一	一	七	五	七
五、六、七〇				五〇	一〇〇	一一〇	一〇	二〇	五〇	二〇
一一、一二				一〇	一〇〇	五五	五	三三	一〇	三三

### 水産増殖計劃

現 況	更 生 振 興 ノ 目 標	實 行 方 法
<p>一、本村ノ水産ハ鱒、岩魚ガ主ナルモノニシテ庄川沿岸ノ五、六ヶ部落ニ僅カノ鮎ヲ漁獲シ其ノ他極メテ小規模ナル池中養鯉ヲ行フモノアル状態ナリシモ何レモ村内ノ需給ヲ充ス能ハザル處庄川筋小牧ニ於ケル高堰堤ノ築造ニ依リ鱒ノ遡上ハ遮斷サレ漸ク岩魚種族ノ殘レルノミニシテ愈々村民ハ鮮魚ヲ味フ事遠ク望マレザル現狀ニ鑑ミ本村魚業實行組合並ニ本縣水産會ノ試験的事業トシテ最も小規模ナル河鱒、紅鱒等ノ孵化、放流ヲナシツ、アル現狀ナリ。</p>	<p>一、漁業實行組合ノ活動ヲ促シ縣及水産會ノ積極的助成ヲ得テ河川魚族ノ孵化放流ヲ爲スノ外河鱒、紅鱒、岩魚等池中養殖ヲ水無、坂上、上百瀬等ニ設置セントシ猶各農家ニ池中養鯉ヲ獎勵シ利賀川筋栗當ニ於ケル魚辰シ瀧ヲ破壊シ魚梯ヲ築キ鮎、ウグイ、ノ遡上ヲ容易ナラシメ村内需給ヲ充スノ外五ヶ年後ニハ輸出總額壹萬圓ヲ得ントス。</p>	<p>一、河川整理。 イ、栗當ノ魚辰シ瀧ノ破壊魚梯築造。 ロ、其他魚族遡上ノ障害物除去。 二、養殖場設置。 イ、坂上ニ設置シアル孵化場ヲ擴大シ熾ニ放流ヲ爲シ他面計劃中ノ河鱒、紅鱒、池中養殖ノ成功ヲ期シ其ノ他、水無、百瀬川等ニ獎勵設置ヲ爲ス。 ロ、水田利用幼魚養殖。 水田利用ノ養鯉獎勵ヲ爲シ灌溉調節、火防兼用ノ池中養鯉ヲ各戸ニ行ハシメ飼料ニ蠶蛹及堆肥製造ニ依ル蚯蚓等ヲ用ヒ合理的増收ヲ計ラムトス。</p>

冬期勞力消化家内工藝増産七ヶ年計劃

(別表添付)

現況	更生振興ノ目標	實行方法
<p>全村ヲ通ジ製造戸數八十餘戸産額壹萬九千圓ヲ産シ冬期間ノ副業中首位ヲ占ムルモ從來經濟機構ノ不統制ニ依リ利益ノ大半ハ悉ク特定ノ奸商ニ搾取壟斷セラレ爲メニ全村の生産ノ普及至難トナリ寧ロ最近頽廢ノ機運ニアリ。</p> <p>村内ニ原料豊富ナルモ多少ノ技術ト熟練ヲ要シ加フルニ從來講習ノ機會ナカリシ爲メ僅カニ一部自家用ノ生産ヲ爲スニ過ギズ原料ハ悉ク薄利ヲ以テ市場ニ移出シツ、アリ。</p> <p>原料薬ノ生産量ニ比シ生産高微々タルモノニシテ年々繩、春、苳、俵、草履ノ移入額夥シク農家經濟上矛盾之ヨリ</p>	<p>1、製紙 生産高三年後三萬五千五百圓、七年後ハ全村のニ普及生産セシメ冬期勞力ノ消化ヲ圖リ五萬五千圓ノ生産額ヲ目標トシテ本年産業組合第二事務所ノ井波町進出ニ依リ本村ノ全面的經濟機構ノ改善ヲ爲シ奸商ヲ余所ニ悉ク純利ヲ村民ノ收得ニ歸セシム。</p> <p>2、眞綿 村内生産原料ノ利用消化並ニ冬期婦女子ノ餘力緩和消化ニ資シ毎戸生産ヲ勵行シ七年後八百貫ノ生産ヲ期ス。</p> <p>3、薬工品 水田ノ擴充計劃ニ伴ヒ原料薬ノ利用加工ヲ勵行シ冬期余剩勞力ヲ利用化シ村内ノ自給自足ヲ期スルト共ニ移出販賣</p>	<p>1、全村の生産ノ普及實行。 2、楮ノ自給自足。 3、共同販賣。 4、信用組合委託販賣。 5、信用組合ノ融資。 6、原料品ノ共同購入。 7、出荷組合設立。 8、販路ノ擴張。 9、生産品ノ改良。</p> <p>1、講師招聘ノ講習會ノ開催。 2、原料ノ村内均霑。 3、出荷組合ノ設立。 4、共同販賣。 5、眞綿ノ加工紡糸。</p> <p>1、機械ノ利用。 2、共同作業場ノ建設。 3、加工法ノ改良。</p>
<p>大ナルハナク農山村民ノ最モ恥羞トスベキ現狀ナリ。</p> <p>近時木炭ノ縣外移出、縣管検査ノ實施ニ伴ヒ葦儀ノ需用激増シ之ガ村内必要ノ大半ハ生産サレツ、アリト雖モ未ダ充足ノ域ニ達セズ、而モ原料葦無限ナレバ生産能力綽々タリ。</p> <p>古來艾ハ民間薬トシテ需用廣ク藥草中ノ王座ヲ占メ近時温灸法等ノ實現ト共ニ益々需用ノ激増ヲ示セルモ交通不便ニシテ運輸費ノ増加餘儀ナキヲ以テ生産賃金ヲ夥シク減殺セラレ爲メニ原料ノ豊富ナルニ比シ生産量僅々三千二百貫ニ過ギズ延ヒテハ原料採取ヲ低減セシムル狀態ニアリ。</p> <p>現在筍ヲ加工罐詰ノミニシテ僅々二百圓ノ産額ニ過ギズ加工原料豊富ナル本村ノ實狀ニ徴シ此種ノ計劃施設ナキハ甚ダ遺憾トスル所ニシテ年々ノ移入額二千五百圓ヲ下ラズ。</p>	<p>ヲ爲シ農家經濟ノ更生ヲ期ス。</p> <p>4、炭 俵 本村木炭ノ増産ニ伴ヒ自給自足ヲ期シ冬期剩餘勞力ノ緩和消化ヲ圖リ交通機關ノ完備ト相俟ツテ移出販賣ヲ爲シ以テ經濟更生ノ一助ヲラシム。</p> <p>5、もぐさ 原料蓬ノ採取勵行ニ伴ヒ村内既設製造場ニテ於テ消化困難ナル場合ハ工場ノ増設ヲ獎勵シ生産能力ヲ圖リ勞働能力ノ調節ト兼ネテ原料採取ノ獎勵ニ資シ山村ノ特産物ヲラシム。</p> <p>6、蔬菜ノ罐詰加工 現在ノ移入防止ニ努メ自家用ノ自給自足ヲ期シ延イテハ移出販賣ニ進出セン</p>	<p>4、共同販賣。</p> <p>1、原料葦ノ採取。 2、村内ヲ均霑シ自給自足。 3、移出販賣。 4、共同出荷。</p> <p>1、原料ノ採取勵行。 2、生産品ノ改良、精製ノ實行。 3、販路ノ擴張。 4、共同出荷。</p> <p>1、山葵漬ノ獎勵。 2、筍、うぎ、わらび、蒨、菌茸、福神漬、果實ノ罐詰加工獎勵。 3、加工法ノ講習會開催。 4、加工組合ノ設立。 5、共同出荷。</p>

現況	更生振興ノ目標	實行方法
<p>大ナルハナク農山村民ノ最モ恥羞トスベキ現狀ナリ。</p> <p>近時木炭ノ縣外移出、縣管検査ノ實施ニ伴ヒ葦儀ノ需用激増シ之ガ村内必要ノ大半ハ生産サレツ、アリト雖モ未ダ充足ノ域ニ達セズ、而モ原料葦無限ナレバ生産能力綽々タリ。</p> <p>古來艾ハ民間薬トシテ需用廣ク藥草中ノ王座ヲ占メ近時温灸法等ノ實現ト共ニ益々需用ノ激増ヲ示セルモ交通不便ニシテ運輸費ノ増加餘儀ナキヲ以テ生産賃金ヲ夥シク減殺セラレ爲メニ原料ノ豊富ナルニ比シ生産量僅々三千二百貫ニ過ギズ延ヒテハ原料採取ヲ低減セシムル狀態ニアリ。</p> <p>現在筍ヲ加工罐詰ノミニシテ僅々二百圓ノ産額ニ過ギズ加工原料豊富ナル本村ノ實狀ニ徴シ此種ノ計劃施設ナキハ甚ダ遺憾トスル所ニシテ年々ノ移入額二千五百圓ヲ下ラズ。</p>	<p>ヲ爲シ農家經濟ノ更生ヲ期ス。</p> <p>4、炭 俵 本村木炭ノ増産ニ伴ヒ自給自足ヲ期シ冬期剩餘勞力ノ緩和消化ヲ圖リ交通機關ノ完備ト相俟ツテ移出販賣ヲ爲シ以テ經濟更生ノ一助ヲラシム。</p> <p>5、もぐさ 原料蓬ノ採取勵行ニ伴ヒ村内既設製造場ニテ於テ消化困難ナル場合ハ工場ノ増設ヲ獎勵シ生産能力ヲ圖リ勞働能力ノ調節ト兼ネテ原料採取ノ獎勵ニ資シ山村ノ特産物ヲラシム。</p> <p>6、蔬菜ノ罐詰加工 現在ノ移入防止ニ努メ自家用ノ自給自足ヲ期シ延イテハ移出販賣ニ進出セン</p>	<p>4、共同販賣。</p> <p>1、原料葦ノ採取。 2、村内ヲ均霑シ自給自足。 3、移出販賣。 4、共同出荷。</p> <p>1、原料ノ採取勵行。 2、生産品ノ改良、精製ノ實行。 3、販路ノ擴張。 4、共同出荷。</p> <p>1、山葵漬ノ獎勵。 2、筍、うぎ、わらび、蒨、菌茸、福神漬、果實ノ罐詰加工獎勵。 3、加工法ノ講習會開催。 4、加工組合ノ設立。 5、共同出荷。</p>



合 計	阿 別 當 入 合 坂 上	百 瀨 川 入 合	大 勘 場 入 合 水 無	新 山	栃 原	下 原	大 牧	長 崎	北 原	仙 野 原
四六五				四	二〇	二	一	七	四	七
一九、七〇〇				八〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇		一、〇〇〇	八〇〇	一、二〇〇
一、〇一一				一	六〇	三〇	一	二五	二〇	一
四七、〇〇〇										
三、五、〇〇〇				一、〇〇〇	三、五〇〇	二、〇〇〇		一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
一、五五五										
三、八七五										
二、四九五				一	一五〇	一〇〇	一	六〇	五〇	一
一三九、五〇〇				一、一〇〇	六、〇〇〇	三、一〇〇	三〇〇	二、一〇〇	一、一〇〇	二、一〇〇
二、七九〇				二、一〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇
五、〇〇〇				一、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇		二、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇
一〇、〇〇〇				一〇	九〇	一〇〇	一〇	三〇	一〇	一五
五、五五〇				一	一五〇	一〇〇	一	一五〇	一〇〇	一〇
二七九、〇〇〇				二、〇〇〇	三、〇〇〇	六、〇〇〇	三〇〇	五、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇

### 木竹工品増産擴充五ヶ年計劃

(別表添付)

現 況	更 生 振 興 ノ 目 標	實 行 方 法
<p>本村ノ木竹工品ハ原料豊富ナレ共交通運搬ノ不備ト動力ノ供給至難ナル爲僅カニ奥大勘場、上百瀨ニ於ケル木工品ト百瀨川上百瀨ニ於ケル竹細工ヲ副業トシテ生産シツ、アル状態ナリ。</p>	<p>一、製材、木工場建設。 二、動力ノ供給。 三、家庭工業ノ普及。 四、販賣機關ノ統制。</p>	<p>一、水無、大勘場、坂上、上百瀨入合ニ製材所、木地工場等ヲ建設シ高價木ノ用材、製板並ニ枋、毛無棒、ハクシナ、白樺、柳等ノ木工品ヲ製造ス。 二、動力ハ發電動力ヲ産業組合ノ經營ニ需メ低廉ニ供給スルト共ニ隨所ニ水車ヲ以テ充足ス。 三、竹細工、妻揚子、木製玩具等ノ製造ヲ冬期農閑期ヲ利用シテ全村ニ普及シ講師ノ招聘、講習會ノ開催等ヲナシ目的達成ヲ期サントス。 四、産業組合ニ委託或ハ出荷組合販賣等ヲ組織シ各地商工會ト連絡ヲ計リ實績ノ向上ニ努ム。</p>



木竹工品増産擴充五ヶ年計劃

大字名	戸數	種類	各年産額	現年産額	昭和八年額	昭和九年額	昭和十年額	五年後ノ目	摘	要
水無	七戸			二、〇〇〇	三、五〇〇	七、〇〇〇	八、〇〇〇	三〇、〇〇〇	大勘場、水無入合地ヲ含ム	
奥大勘場	一五	木工品						一〇、〇〇〇		
坂上	三九	木工品						一〇、〇〇〇	坂上、阿別當入合地ヲ含ム	
阿別當										
田ノ島										
千束										
桂尾										
細島										
上島										

北島	岩淵	利賀	大豆谷	北豆谷	押場	上百瀨	中村	百瀨川	草嶺	高沼	栗當
						三二		五七			
						木工品		竹細工			
						一五〇					
						一五〇		五〇			
						五〇〇		二〇〇			
						五、〇〇〇		五〇〇			
						一五、〇〇〇		一、〇〇〇			
						上百瀨、百瀨川入合地ヲ含ム					

備考	合 計	阿別當 坂上 入合	百瀬川 入合	大勘場 入合	新 山	栃 原	下 原	大 牧	長 崎	北 原	仙 野 原
水無、坂上、上百瀬各入合地ニ木工、製材等ノ工場ヲ設置ノ計劃ナリ。	一五〇										
	二、一五〇										
	三、七〇〇										
	七、七〇〇										
	二一、五〇〇										
	六六、〇〇〇										

### 産業組合振興擴充計劃

現 況	更 生 振 興 ノ 目 標	實 行 方 法
<p>一、本村ハ四面山岳ニ圍繞セラレ只一路井波町ニ通ズル車道ノ存ズルト雖モ辛ジテ運送馬車ノ通行スルノミニシテ從來本村ノ購販賣ノ大部分ハ井波町ニ於テ行ハレ然モ村ニ統制機關ナカリシ爲メ個人取引ニシテ恰モ原始時代ヲ偲バシムル往時其ノ儘ノ物々交換ノ状態ニシテ大半ハ生産品ノ委託販賣ヲ常トシ約貳拾萬圓購買ト同額ニ達スル販賣品ハ特定ノ仲間商人ニ自由ナル利益ヲ得サシメ金融機關ナキ爲メ高率ノ金融ニ甘ジ今日ニ至リシガ益々專横ヲ極メ局端ナル利己主義ヲ發揮スルニ至リ到底偲ブニ堪エズ昭和三年本村産業組合ノ設立ト共ニ逐時其弊ノ打開ニ進ミツ、ア</p>	<p>一、出資。 イ、現在一口參拾圓ノモノ六百二十三口ナルヲ三ヶ年後ニハ一千口トシ五ヶ年後ニハ一千五百口トス。 ロ、現在戸數四百六十五戸ノ内八十七戸ノ未加入者アルヲ向フ三ヶ年中ニハ全部加入セシメントス。 二、信用事業。 イ、貯金。 現在ノ貳萬壹千圓ヲ向フ五ヶ年間ニハ拾萬圓ニ擴充セントス。 ロ、貸付。 現在ノ四萬九千圓ヲ向フ五ヶ年間ニハ拾萬圓ニ擴充セントス。 三、購買事業。 イ、現在購買高貳萬圓。</p>	<p>一、組合趣旨普及徹底。 イ、部落懇談會開催。 ロ、名士講演。 ハ、小學兒童ニ組合中心主義教育實施。 ニ、産業組合旗毎戸調製。 ホ、産業組合記念日ノ徹底。 二、貯金獎勵。 イ、不況救済月掛義務貯金ノ勵行。 ロ、負債償還月掛義務貯金ノ勵行。 ハ、團体貯金ノ勸誘。 ニ、兒童貯金獎勵。 ホ、低利資金借入。 三、貸出。 イ、使途ノ調査。 ロ、産業資金年賦償還貸付。</p>

ルモ難路十數里ノ遠距離ト地理的關係カラ之ガ舊弊打開目的達成ニハ猶一段ノ努力ヲ捧ゲザルベカラザルニ依リ昭和八年ニハ井波町ニ産業組合第二事務所ヲ新設シ木炭倉庫ヲ建設シ本村主要物産タル木炭、繭、生糸、和紙、其他副業林産物等ノ販賣並ニ生活必需品ノ低廉仕入ニ任シ經濟機構ノ改革ト舊弊打破ノ方途ヲ講ジ以テ直接間接ニ村民ノ福利増進ヲ計ラントス。

向フ五ヶ年間にハ貳拾萬圓ニ擴充セントス。  
 四、販賣事業。  
 現在壹萬圓ヲ向フ五ヶ年間にハ貳拾萬圓ニ擴充セントス。  
 五、利用事業。  
 現在利用事業ハ行ハザルモ井波出張所設置ト共ニ精米機、肥料粉碎機ヲ設置シ猶運送業者ノ共同宿舍並ニ電氣事業ノ經營ヲナシ村内点燈並ニ動力供給ヲナサントス。

ハ、金利ノ引下。  
 四、購販賣。  
 イ、共同購入。  
 ロ、共同販賣。  
 ハ、委託販賣。  
 ニ、購入先選擇。  
 ホ、現金取引制ノ實行。  
 五、利用。  
 イ、現在購入ノ食糧米約一千五百石並ニ肥料ハ組合ニテ精米加工ス。  
 ロ、井波町ニ共同舎ヲ建設シ村内運送業者其他ヲ實費ニテ宿泊ナサシム。  
 ハ、組合經營ノ電氣事業ヲ行ヒ村内点燈並ニ家庭工業ノ動力ヲ供給ス。  
 ニ、木炭事業經營。  
 ホ、自動車運輸ノ經營。

### 全村現在五十萬圓負債整理計劃

(別紙添付)

現 況	整 理 方 針	實 行 方 法
<p>累年打續ク財界ノ不況ニ依リ諸工業ノ不振ニ伴ツテ男女ヲ合セ一千數百人ノ村外出稼者ハ失業シ農林産物ノ極端ナル下落、就中本村主要物産タル糸價ノ暴落ハ村民收支ノ不均衡ヲ招キ他面多年ノ弊習タル村民經濟取引ガ一部特定商人ノ壟斷的搾取ニ陥入りタル結果ト好況時代ニ染マサレタル精神ノ弛緩ニ依ル生活程度ノ向上等ニ原因シ村内一戸平均壹千圓強全村總額五拾萬圓ノ負債ヲ有スルニ到リ、然モ之等ノ金利ハ平均年一割五分ノ高率ノモノノミニシテ現狀ヲ以テ推移シタランカ全ク自滅ノ外ナキモノナリ。</p>	<p>一、自力主義ヲ信條トシ昭和八年ヨリ十ヶ年分割五十萬圓償還完了。        二、各部落ニ實行機關ヲ組織シ正確ナル負債調査ヲ行フコト。        三、周到ナル償還計劃ヲ樹立スルコト。</p>	<p>一、消費節約、生産増加等ノ財源ヲ以テ各自正確ナル償還年次表ヲ作製シ之ガ目的達成ノ爲ニ負債整理義務貯金ヲ實行スルコト。        二、各部落毎ニ負債整理委員ヲ設ケ債權、債務兩者ヨリ最モ正確ナル數字の調査ヲ行ヒ整理ヲ必要トスル者ノ調査ヲ遂グルコト。        三、各戸毎年ノ收支豫算ヲ編成シ、一家豫算生活ノ徹底ヲ期シ負債償還、積立貯金ハ諸支出ニ先立之ヲ勵行シ償還年次計劃ハ各自ノ收支ヲ基礎トシタル最モ正確ナルモノヲ作製ナサ</p>

- シメ其實績ヲ監督スルコト。
- 四、負債整理組合ヲ組織シ高利債借替、其他負債整理ニ關スル一切ノ計劃立案ヲ爲シ適確ナル實行ヲ期ス。
- 五、各種團體ノ連絡統制ヲ保チ毎年整理成績及財界ノ變動ニ徴シ適當ナル償還方法ノ立直シヲナシ整理方法ノ實質的改善ヲ行フ。

四、負債整理組合組織。

五、各種團體ノ連絡統制整理方法ノ實質的改善。

### 全村現在五十萬圓負債整理計劃

(十ヶ年完債)

年次	償還財源					計	償還財源		各年別償還額	差引殘額
	木炭増産	養蠶増收	製糸増産	米産増收	其ノ他副業		増收ノ二分ノ一	労働賃金		
昭和八年	六、四〇〇	八、二五五	五、二六〇	六〇〇	五、七三三	二六、三〇八	一三、二四四	三六、八七六	五〇、〇〇〇	二五、九二二
九年	一七、三〇〇	一六、五三〇	一〇、五〇〇	三、一七〇	一一、四〇六	五九、〇四六	二九、五三三	二〇、四七七	五〇、〇〇〇	一、五七九
十年	三〇、五〇〇	二四、七九五	一五、七六〇	〇、一〇七	一七、一六九	九五、二六四	四七、六六七	二、三六八	五〇、〇〇〇	四、五〇〇
十一年	四〇、三七五	三六、五〇七	二〇、六六〇	一〇、七七〇	二八、二〇四	一三六、五〇六	六八、二五三	一、七四七	七〇、〇〇〇	六、五〇〇
十二年	五〇、三三〇	四八、二二九	二五、五三三	一七、一三〇	三九、三三九	一八〇、三九九	九〇、一七九		九〇、〇〇〇	九、〇〇〇
十三年	六〇、〇七五	四八、二一九	三〇、九〇〇	二二、五九〇	五〇、一七四	二二二、〇五八	一〇六、五九九		一〇五、〇〇〇	七一九
十四年	七〇、〇〇〇	四八、三〇〇	三三、二二〇	三〇、〇五〇	六二、三〇九	二四四、九一九	一二一、四九九		一〇八、〇〇〇	一三、八五九
十五年	七〇、〇〇〇	四八、三〇〇	三三、二二〇	三三、五五〇	六二、三〇〇	二五二、一〇〇	一二六、〇五九		一三五、五〇〇	五、五五九
十六年	七〇、〇〇〇	四八、三〇〇	三三、二二〇	三六、六〇〇	六二、三〇〇	二五二、一〇〇	一二六、一〇〇		一三五、五〇〇	一、〇〇〇
十七年	七〇、〇〇〇	四八、三〇〇	三三、二二〇	三六、六〇〇	六二、三〇〇	二五二、一〇〇	一二六、一〇〇		一三五、五〇〇	九、五〇〇
計	四八四、九〇〇	三七五、七三三	二四九、七七〇	二〇二、二四〇	三九九、三六四	一七二一、九〇九	八五五、九五四	六一、四六八	八九二、〇〇〇	二五、九二二

351  
576

昭和八年九月十五日印刷  
昭和八年九月十八日發行

富山縣東礪波郡利賀村

編輯者 宮崎博至

富山縣東礪波郡出町杉木新二三五番地

印刷所 中越印刷株式會社

富山縣東礪波郡利賀村

發行所 利賀村役場

償還年次表

備考	計	年次償還		計	償還	殘金
		昭和八年	昭和九年			
一、利率基準ハ年一割平均トス。	三九一、五〇〇	五〇〇、〇〇〇 <sup>四</sup>	五〇〇、〇〇〇	五五〇、〇〇〇 <sup>四</sup>	五〇〇、〇〇〇 <sup>四</sup>	五〇〇、〇〇〇 <sup>四</sup>
	一〇六、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五五〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
	一一〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五五〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
	三〇五、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五五〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
	三七六、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五五〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
	四三八、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五五〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
	四八〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五五〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五五〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
	四八〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五五〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
	四三八、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五五〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
	三七六、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五五〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
	三〇五、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五五〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
	一一〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五五〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
	一〇六、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五五〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
	三九一、五〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五五〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇

終

